

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	63	大学等名	鹿屋体育大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、ディプロマ・ポリシーで目指す12の資質・能力と各授業を個別に紐づけてGPAに反映・可視化したこと、スポーツ指導力の可視化として独自の「スポーツ指導者コンピテンシーテスト（SCCOT）」を開発したこと、社会人基礎力の可視化として「汎用的能力テスト（PROGテスト）」を活用したこと、さらに、可視化した学修成果を学生自身で振り返ることができる「学修ポートフォリオ（NIFSpass）」を構築し、エビデンスベースでの教学システムを完成させたことは高く評価できる。また、パンフレットの作成等による学生への周知や活用サポートについても、きめ細やかな取組がなされ、教員に対しても授業力に対する顕彰制度が導入されるなど、全学的な改革が進捗していることも十分評価できる。加えて、本事業を契機に長期的展望をもった教育課程改訂に取り組むことが決定されており、継続した改革の推進が期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、年度ごとに施策の効果や課題について言及されていることから、本事業が着実に成長し、学内に根付いていったことが見て取れる。あわせて、テーマ別評価の観点に即した着実な取組が行われており、どの観点についても独自性と工夫が随所に見られることも高く評価できる。必須指標については、「学生の授業外学修時間」を除き全ての目標値を達成したことは評価できる。任意指標については、目標値未達の指標もあるものの、総じて事業開始年度より向上しており、今後の事業継続の中で更に改善されることが期待される。また、中間評価及びフォローアップにおける指摘事項の多くが改善されており、今後の継続検討とされるものについては、着実に対応されることが望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後の事業継続に向け、本事業の企画運営組織である「教育企画・評価室」が学長直下に置かれ、アドミッションセンター、キャリア形成支援室との連携体制も構築されたことに加え、資金面についても学内経費として予算計上されるとともに、本事業において雇用した人材も継続雇用されることから、引き続き本事業を強固に推進する体制が整備されていると評価できる。しかしながら、評価体制に関して、「運営企画会議」が取組に対する評価を行い、「監査室」が経費使途の妥当性を確認する体制とされているが、より具体的な自己評価の仕組みが不明確である。継続的な外部評価の実施も調整を図っているとのことから、自己評価と併せて、着実に整備・実施されていくことが望まれる。

事業成果の普及については、「スポーツ指導者コンピテンシーテスト（SCCOT）」が当該大学の学生だけでなく、日本スポーツ協会や中等教育・高等教育における体育系部活の指導者に対する検証も行われ、他の大学等への普及を推進していることは十分評価できる。一方で、このテストは令和2年度から有償での実施とされているが、日本スポーツ界発展の観点からも、可能な限り無償での提供を検討し、一層の普及を目指すことが望まれる。